

☆家畜飼養管理施設たまにわ堆肥センター(川西町)

川西町玉庭地区は、町の西部に位置する中山間地域で、水稲と家畜の複合経営を行っている農家が多く、特に、肉用牛の生産の歴史は古く、高い飼養技術を誇り、同町の高品質肉用牛生産の基礎を築いてきました。
広さ二百坪の面積を誇る玉庭牧場の敷地内に完成した牛舎は、肥育牛舎2棟(九〇八・四坪)、繁殖牛舎(一万二九三・八坪)。木造平屋建ての牛舎5棟は、肥育牛百二十頭、繁殖牛六三頭が収容できる規模だそうです。牛舎は、平成十八年度「川西町玉庭地区山形県強い農業づくり交付金事業」の援助を受け、資料自給率の向上とニーズに合った素牛生産のための繁殖牛頭数の増加、肥育牛農家との一貫した生産体制の推進、担い手の育成を図ることを目的に建設されました。畜舎の管理は、事業参加者五人で組織された「黒べこの郷粗糞料和牛生産組合」が行っており、県や町の技術・経営指導、JAの営農・資金支援などの体制も整えられ、二〇〇八年までに百九十一頭の飼育を目標としています。資料自給率の向上のため、五・六畝の草地造成も行われ、町の畜産基地としての役割も担い、共同生産による良質粗糞料の確保、機械の行動購入によるコスト削減を図っていくことにしています。



【建設された牛舎、隣に堆肥センターが建設中】

☆りんご「秋陽」の取り組み(朝日町夏草)

山形のりんごは青森、長野、岩手に次いで、栽培面積、出荷量とも全国四位。この品種は、山形農業総合研究センター農業生産技術試験場において陽光×千秋の交配育成したものです。平成十八年に「秋陽」は新品種としてデビューし、食味良好な中生種

として市場からも高い評価を受けているとのことです。秋陽の西村山管内における面積は十二畝であり、地域全体で生産振興を図っています。収穫時期は九月下旬から十月月上旬にかけてとなり、山形セレクトショウの認定も受けております。平成二十年まで朝日町で一元集荷・出荷することとしており、JAの産直施設で生搾りジュースも提供しているそうです。
視察のとき、りんごはまだ実が熟していませんでしたが、九月定例会で試食会を開催していただき、食することができました。歯ざわり良く甘酸適和で大変おいしかったです。山形を代表するようになり、ごになるよう、私たち議員もバックアップしてまいります。



【「秋陽」生産技術などについて説明を受ける】

☆農事組合法人りぞねっと(真室川町)

米にこだわった豊かな地域づくりをテーマに、米を主原料とした米麹製造加工施設です。

米の副食化、食の多様化と健康指向化に対応した、新しいお米の粉食化カテゴリーの研究・開発・提案をテーマに、米粉加工食品の分野で皆様に喜ばれる商品づくりを



【米麹製造加工状況】

目指し、米食文化に貢献したいと設立されました。原料の米は近くの農家の方々が自家製の米を工場に持ってきて、製造できるようなことをコンセプトとして運営しているとのこと。麺も加熱処理していることから、煮る時間も一分から一分半ほどと短いということを開き、わたしは「カップヌードルに挑戦したらどうか」と質問したところ、「今後取り組んでいきたい」とのこと。
米麺のカップヌードルの誕生を心待ちにしたいと思っています。
また、米を使った非常食の開発など、今後、さらなる研究を重ね、様々な商品を発売して米の需要拡大に繋げていただきたいと思います。



【ビークラ、炊風、うどん風、ボクなどに対応可能とのこと】

☆パプリカ栽培(遊佐町)

平成十六年より十八年に山形県の「園芸産地拡大支援事業」や十九年度からスタートした「やまがた園芸チャレンジプラン支援事業」を活用し、ハウスでパプリカを栽培し、現在東北での中心産地となっています。パプリカの夏秋栽培は国内では難しいと言われているのですが、栽培に工夫を凝らし土耕栽培でチャレンジしています。また、町内の畜産農家の堆肥を活用した循環型農業・環境保全型農業を波及して栽培されています。

わたしもたまに料理をする・・・？のですが、その中でパプリカを使った料理があります。いつも近くのスーパーで購入するのですが、全体にやわらかくてなんか水分が抜けているような感じのものしか売っていません。輸入したパプリカだから仕方ないと思っていました。このたびはハウスの中から栽培したパプリカを試食させていただきました。日ごろ購入しているパプリカとの違いを知ることができました。とてもみずみずしく歯ごたえがあり、果物のようなくちみがありましたが、改めて「新鮮」ということを食べたことがない私は、聞くところによりますと日本でも売られているパプリカの七割が輸入品だそうですが、今年もハウスを増築して栽培を拡大していくとのことでした。



【ハウス内でのパプリカ栽培状況】

これまで培ったノウハウを活かし、新鮮でおいしいパプリカをたくさん生産していただき、県内のいたるところで販売されるように期待します。

《編集後記》

今年度から取り入れられた「やまがた緑環境税」、荒廃した森林を実際に視察してみると、森林整備の必要性を感じました。地球温暖化防止に向けた取り組みが地球規模で取り組まれている現状です。山形県も目標数値に達していないのが排出量削減に取り組んでいるにもかかわらず、近年被害が増加しているような状況です。また、近年被害が拡大している松食い虫、ナラ枯れなど賢明な防除にもかかわらず右肩上がりの被害で推移しています。県民ひとり一人が、もう一度地球環境保護という観点で、認識を新たにできるように施策を講じていかなければならないと痛感しました。

このたび視察させていただいたパプリカ栽培農家は、親子で栽培に取り組んでいました。息子さんらが農業大学で学び、海外研修でノウハウを取得して栽培にあたりたいとのことでした。父親の栽培ハウスと息子さんのハウスの場所が別々のところにある、和やかな雰囲気の中にもお互い競い合い「品質のよい作物を作るんだ」という生産にける意欲が感じられました。
わたしは、本県の基幹産業である農業が持つ様々な課題解決に向け、皆様からご指導いただきながら真摯に取り組んで参ります。
子供に自信を持って継いでもらえる農業立県を目指して・・・